

【建設通信新聞 令和3年4月13日】

183人が基礎学ぶ

群馬建協・建産連
新入社員研修会

群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県建設産業団体連合会（同）は12日、前橋市の群馬建設会館で、2021年度の新入社員研修会を開いた。写真。67社から計183人が参加。社会人に必要な基本マナーや組織で働く上での基本ルールを始め、業界の実態や将来動向など建設業の基礎知識を学んだ。

開会に当たり青柳会長は「この研修会もこととして8年目。社会人として必要な知識



・マナーを習得し、1日も早く建設業界の第一線で活躍される人材となってもらうことを目的としている。何が大切かといえば、常にスキルアップし続けることではないか。きょうはそのための第一歩の研修会だと思って臨んでほしい」と激励した。

加えて、防災・減災、国土強靱化の動きや9年連続での設計労務単価の上昇、週休2日制の導入、最新技術を使った生産性の向上など、建設業界の現況を説明した上で、「やりがいのある業界に確実に変わりだそうとしている」と呼びかけた。

ことしは新型コロナウイルス感染症拡大防止で3密を回避するため、12、13の2日間に分けて研修を開く。建設経営サービスの講師が、建設業の基礎知識や社会人として知っておくべき「マナーの基本」、新入社員のスキルアップなどをテーマに講演した。研修会には、東日本建設業保証群馬支店が協力した。

【建設工業新聞 令和3年4月13日】

群馬建協らが 新入社員研修

67社、183人参加

群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県建設産業団体連合会（同）は12日に、2021年度の新入社員研修会を前橋市の群馬建設会館で始めた。写真。両会の支部や関係団体に所属する建設会社から67社・183人の申し込みがあった。新型コロナウイルスの感染防止対策として、13日までの2日間に分けて実施する。建設業の基礎知識に加えて、税金や貯蓄といった



「マナーの基本」、ビジネスマナーなどを学ぶ。

開催は8年目。昨年は感染症の流行で実施しなかった。研修会には東日本建設業保証群馬支店が協力している。参加者の平均年齢は20・6歳（19年実績20・4歳）。

冒頭、青柳会長は「2年前に落成したばかりのおしゃれな会館で、気持ち良く働いていただけたらと思う。設計は東京と前橋の企業が協力し、JVが施工した。長野の善光寺近くの信濃美術館と同じ設計者が関わっている」と会場の群馬建設会館を紹介した。その上で

「この感覚こそ、ものづくりが持つ建築の力だと体験してほしい」と述べた。会館は設計をプランツアソシエイツ・協同組合群馬県建築設計センター、施工を小林工業・鶴川鋼業・宮下工業が担当。旧会館は小野里工業・三原工業が解体した。

労務単価の引き上げ、週休2日の促進といった処遇改善や、ICT（情報通信技術）施工をはじめとする生産性向上の取り組みが進み、「やりがいのある業界に確実に変わりだそうとしている」と建設業の現状を説明。「大事なのはスキルアップ、高みへの第一歩にしてほしい」とエールを送った。講師は建設経営サービスの丹治貴紀氏、ファイナンシャルプランナーの飯塚重紀氏、イメージアップコンサルタントの田中アイ氏が務めた。

【令和3年4月13日付群馬建設新聞】

新入社員 180人参加し



建設産業の担い手が集った

参加者は2日間合わせて180人を超え、平均年齢は20・5歳となり、これからの建設産業界を担う人材が建設業の基礎知識や社会人としてのマナーなどを基

群建協と県建産連

群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県建設産業団体連合会（同会長）は12日、新入社員研修会を開催した。研修は、新型コロナウイルス対策と様な職種が参加した。参加者は2日間合わせて180人を超え、平均年齢は20・5歳となり、これからの建設産業界を担う人材が建設業の基礎知識や社会人としてのマナーなどを基

社会人の基礎から学ぶ

青柳会長は「この研修会も開催して8年目。必要な知識やマナーを習得して働いてもらえるように開催している。社会人は常にスキルアップが必要。研修はその一歩だと考えて取り組んでほしい」と呼び掛けた。

研修内容は建設業の基礎知識のほかに、税や社会保険の基本、イメージアップの方法など多岐にわたる。研修の参加者も講師の紹介などで研修の運営に参加。知識の研修だけでなく、社会人としての対応力などについても実践的に学んだ。